

特定植物群落の選定調査について

和田 清

環境庁の第3回自然環境保全基礎調査—特定植物群落調査—が1985年度に実施され、長野県では当研究会へ委託するよう要請してきた。

この調査の目的は以下の二点にある。

- 前回（1978年度）選定された特定植物群落
が、その後どのような改変を受けているかを
「追跡調査」すること。
- 新たに、追加選定すべき特定植物群落を調査
して、リストアップすること。

当研究会では、1985年5月の総会において、この調査の受託を決定した。続いて、調査責任者に和田を当て、調査委員の選出、委嘱、調査推進等についての一任を受けた。

後日、清水会長と相談の結果、次の会員に調査委員をお願いした。（敬称略）

池田登志男、伊藤文男、今井建樹、大塚孝一、小口好久、奥原弘人、亀山章、柄山祐希、古松隆明、斉藤定美、下野園正、白井幸長、楯誠治、田中茂、土田勝義、中村英夫、中山洸、名取陽、馬場多久男、林一六、松田行雄、山崎惇、横内文人、渡辺隆一、和田清。

6月より作業を開始し、12月末日までに各調査員から報告を受けたところ、追跡調査では、56群落中20群落に改変が認められた。また、新たに追加すべき群落として、25群落についての調査データが寄せられた。それらの一覧は次頁のようである。

(1) 追跡調査

長野県では、1978年度に最初の特定植物群落調査を行い、別記56群落を選定した。これは、当時、県内の植生図（5万分の1）の作成作業と平行して進められたもので、群落位置や分布範囲については、それらの植生図に基づいている。

今回はこの56群落について、その後の

ア. 群落の消滅または一部改変等の変化状況及びその原因

イ. 保護の現状及び群落に対するインパクトの状況についてが、調査内容となっている。

調査の結果、際立った改変群落は、Na30のツキヌキソウ群落の自生地が消滅したらしい。初回の資料提供者にも同道願って再調査されたが、前回のような群落を見出すことはできなかった。木曽地方のヒ

ノキ林については、御岳山麓の地震災害による大規模な裸地化のほか、森林伐採の進行が上げられる。また、ブナ林についても同様である。

赤石山脈や飛騨山脈等の自然植生のように、大規模な面積をかかえた地域については、今回何等手をうつことができなかった。北アルプスのどことどこ
の群落が重要かと問われても、答えるだけの資料は何も持ち合わせず、今のところ難しい。

(2) 追加群落

特定植物群落とは、次の基準によって選定された「学術上重要なもの、保護を必要とするものなど」である。

特定植物群落選定基準

記号	理 由
A	原生林もしくはそれに近い自然林
B	国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群
C	比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
D	砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
E	郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
F	過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
G	乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
H	その他、学術上重要な植物群落または個体群

初回では、比較的知られている自然植生域が選定されてきたので、面積も大きな群落を対象とされていた。回が進むにつれて、生活域の周辺にも残された「貴重な群落」を発掘していかなければならない。このような群落は、いずれも小面積のものであるから早急に保護の手立てを講じないと消滅してしまう。

(3) 結語

隣の山梨県では、高山植物等の保護に画期的な法の網をかぶせてきた。信州ではただ手をこまねいている間に、自然の消滅は各地で著しいものがある。この機会に、選定された各群落がまず植物研究会員の皆さんに検討され、間違いなく貴重な植生群であるならば、当研究会は率先して保護活動の推進に力を入れる必要があるだろう。

長野県特定植物群落一覧表

番号	件名	選定基準			
1	関田山脈のブナ林	A・C	46	天竜川の暖帯林	C
2	カヤノ平のブナ林	A・C	47	末川の自然林	A
3	苗場山の自然植生	A・D	48	御岳の自然植生	A・D
4	志賀高原の自然林	A・D	49	城山の針葉樹林	A
5	浅間山の自然植生	A・D	50	赤沢のヒノキ林	A
6	御座山の針葉樹林	A	51	鯉川のヒノキ林	A
9	金峰山の自然林	A	52	田立のヒノキ林	A
10	四阿山の針葉樹林	A	53	南木曽岳のヒノキ林	A
11	菅平の湿生林	A B C	54	鷺母山のモミ林	A
12	烏帽子山の植生	A・C	55	恵那山の針葉樹林	A
13	八ヶ岳の自然植生	A B C D	56	唐花見湿原	D
14	湯川のサワグルミ林	A	1985年度追加群落		
15	雨飾山の自然植生	A	57	佐久市東地のミヤマウラジロ群落	B・D
16	戸隠山の自然林	A・B	58	兜岩山のアカヤシオ群落	B・H
17	黒姫山の自然植生	A	59	霧久保沢の溪谷林	A
18	戸隠奥社の自然林	A	60	志賀高原山麓のミズナラ林	A・H
19	飯綱山の自然林	A	61	菅平大洞のブナ残存林	A
20	旭・大峰山のアカマツ林	E	62	布引観音寺付近の植生	B・H
24	美ヶ原の針葉樹林	A	64	春日溪谷上流部の植生	A
25	美ヶ原の特殊植物群	B・G	65	八ヶ岳東山麓の湿原群	B・D
26	鉢伏山の半自然草原	H	68	矢出川流域の湿地植生	D
27	霧ヶ峰の草原	B・G	69	黒姫山麓のサワグルミ林	A・D
28	東俣の針葉樹林	A	70	聖山北麓のブナ林	E・G
29	諏訪上社の夏緑広葉樹林	A・E	71	四阿屋山のブナ林	E・G
31	入笠山大阿原湿原	B・D	72	焼山のブナ林	A
34	赤石山脈の自然植生	A B C D	73	牛伏寺のブナ林	A B E
37	真那板山の森林	E・H	74	鋸山、熊穴沢のカラマツ天然生林	A・H
38	飛騨山脈の自然植生	A B C D	75	山吹山のケヤキ林	A・E
39	親海湿原植生	C D G	76	乗鞍山麓の湿原群	B・D
40	居谷里湿原	B・G	77	油木のヒノキ林	A・F
41	仁科神明宮の森林	E・F	78	馬籠の湿原植生	B F H
42	生坂のアカマツ林	E	79	小野のシダレグリ群落	H
43	鉢盛山の針葉樹林	A	80	北又沢のヤシイノデ群落	B
44	経ヶ岳の針葉樹林	A	81	羽広のハンノキ群落	D
45	木曽山脈の自然植生	A B D	※欠番は、生育場所が公表されていない群落。		

〔新刊紹介〕 亀山 章「上高地の植物」 A 5 判

221 頁、信濃毎日新聞社、1985 年 7 月、2200 円。

全国に誇る名勝地・上高地の植物がすばらしいカラー図鑑として出版された。今の上高地には年間 60 万人の来訪者があるが、本書はそのような人々への植物案内をしてくれる。この本は次の三部構成となっている。Ⅰ.「自然と景観」では地形・植物・水などの相互関係をまとめている。Ⅱ.「植物社会」では森

林、湿原、水中等の植物社会を取り扱い、群落毎の写真と群落断面模式図、主要構成種を加えて解説してある。大正池から徳沢までの植生図 2 葉があるが、白黒であるのが残念である。Ⅲ.「四季の植物」は花暦と開花順の植物カラー写真と解説である。冒頭に「この本で使われている写真は、大部分が歩道や車道から撮影したものである」とある。自然に対する著者の心構えが、何よりもうれしい。(山猿)